

【問い合わせ先】

第八管区海上保安本部海洋情報部監理課  
専門官 五藤 公威(ごとう きみたけ)

TEL:0773-75-7373(直通)

TEL:0773-76-4100(内線2511)



平成26年9月12日

第八管区海上保安本部

## 平成26年度水路記念イベント開催

～海洋情報で見る日本海～

第八管区海上保安本部では、一般財団法人 日本水路協会との共催で、平成26年度水路記念日<sup>※</sup>イベントとして講演会及びパネル展示を開催します。

URL：<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN8/index.html> (新着情報)

### I 講演会

- 1 日時 10月16日(木) 13:30～16:45  
(受付開始：12:30～ ※定員になり次第受付締め切り)
- 2 場所 舞鶴市商工観光センター5階コンベンションホール  
(舞鶴商工会議所：舞鶴市字浜66番地)
- 3 講演
  - ・「海洋情報提供の今昔」  
講師：海上保安庁海洋情報部海洋情報課長  
楠 勝浩(くすのき かつひろ)
  - ・「海上保安庁における海洋情報業務について」  
講師：第八管区海上保安本部海洋情報部長 吉 宣好(よしのぶよし)
- 4 特別講演
  - ・「漂流物を追う」  
講師：東京大学大気海洋研究所教授 道田 豊(みちだ ゆたか)氏
  - ・「日本海の魚と漁業－変化する環境下での課題と展望」  
講師：(独)水産総合研究センター 和田 時夫(わだ ときお)氏
  - ・「京都府北部の直下型地震と若狭湾を襲った津波の歴史」  
講師：(財)深田地質研究所 都司 嘉宣(つじ よしのぶ)氏
- 5 入場料 無料(どなたでも聴講いただけます)
- 6 定員 300名(第八管区海上保安本部海洋情報部ホームページから事前のご予約が可能です)

## II パネル展示

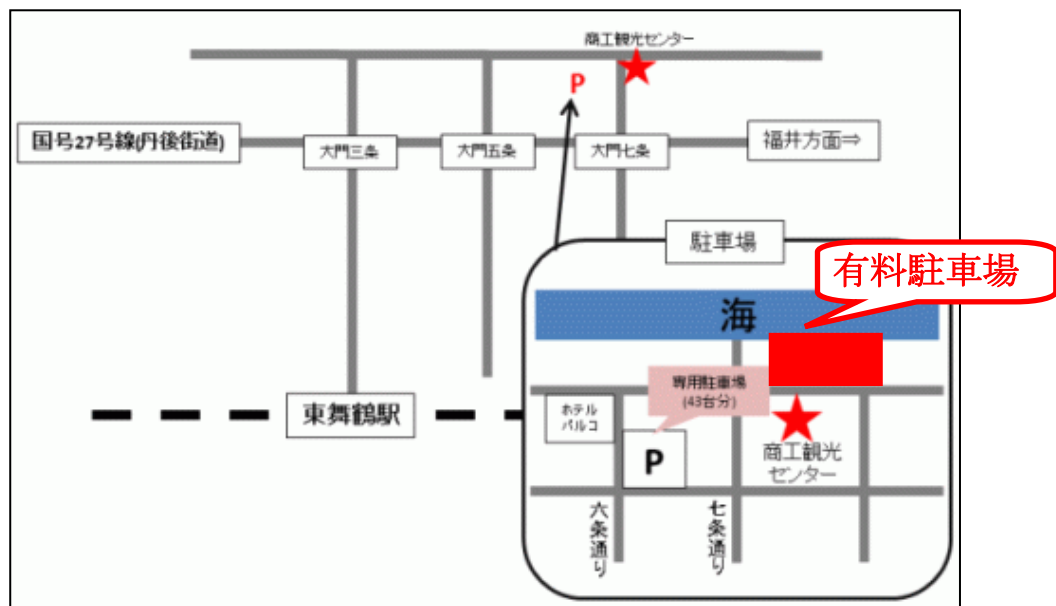
- 1 日時 平成26年10月16日(木) 12:30~17:00
- 2 会場 舞鶴市商工観光センター5階ホワイエ
- 3 展示内容 測量最新技術及び機器、海洋情報の提供に関するパネル。

## III 案内等

### 1 問い合わせ先等

- ・第八管区海上保安本部海洋情報部監理課  
TEL: 0773-76-4100 代表(内線2511)  
0773-75-7373 直通  
FAX: 0773-76-4138
- ・第八管区海上保安本部海洋情報部ホームページ  
URL: <http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN8/index.html>

### 2 講演会・パネル展示会場案内(東舞鶴駅から徒歩約15分)



無料、有料駐車場があります。無料駐車場ご利用の方は、総合案内所にてチェックを受けてください。有料駐車場ご利用の方は、総合案内所でチェックを受けられましたら、1時間無料でご利用いただけます。

なお、駐車場の数が限られておりますので、ご来場の際はできる限り公共交通機関をご利用ください。

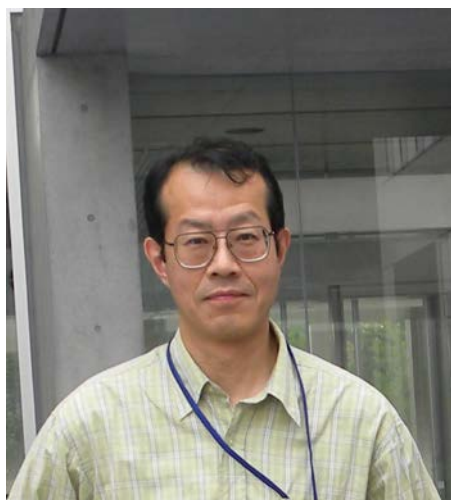
## ※水路記念日

明治4年（1871）7月28日（旧暦）兵部省海軍部に水路局（後の水路部）が置かれ、ここに、当時わが国で緊急課題であった、船の安全を図るための海図を作成する組織が発足しました。

昭和26年（1951）の水路部創立80周年記念事業を期に、毎年7月28日を水路部の創立の日として制定していましたが、昭和46年（1971）の創立100年には太陰暦から太陽暦に換算した9月12日を創立の日とし、以後、この日を水路記念日としています。

当時の実務は、勝海舟らとともに長崎海軍伝習所においてオランダ式の航海・測量術を学んだ津藩出身の柳檜悦（やなぎ ならよし）少佐〔初代水路部長〕を中心として、東京築地の海軍兵学寮（後の兵学校）の一室で現在の水路業務の基礎がスタートし、日本人による近代的な海図作りが精力的に開始されました。

## 道田 豊 (みちだ ゆたか) 氏 プロフィール



### 略歴

- 1958年 広島県広島市生まれ
- 1981年 東京大学理学部地球物理学科卒業  
理学博士 (東京大学 1999年)
- 1984年 海上保安庁入庁
- 1999年 海上保安庁水路部企画課補佐官
- 2000年 東京大学海洋研究所助教授
- 2007年 東京大学海洋研究所教授
- 2010年 東京大学大気海洋研究所教授
- 2014年4月 ユネスコ政府間海洋学委員会 (IOC) の  
WESTPAC25周年記念大会にて  
Outstanding Scientists 2014を受賞
- 2014年現在 東京大学大気海洋研究所教授・所長補佐

### 海洋学者

海面付近の流れの構造とその変動に関する課題を中心に、主として漂流ブイや船舶搭載音波ドップラー流速計 (ADCP) を用いた観測及び観測データ解析を手法とした研究を行っている。

また、南極の水位の長期変動、海洋データ管理という課題にも取り組んでいる。  
日本海洋学会、海洋理工学会、海洋調査技術学会、海洋気象学会、漂着物学会所属  
ユネスコ政府間海洋学委員会 (IOC) 副議長 (2011~2015)  
海洋調査技術学会副会長

### 講演概要 (題目: 漂流物を追う)

海流によって運ばれるさまざまな物体の挙動、それから見える海流像、また逆に、海流の知見を用いて漂流物の挙動を考える (漂流予測等) など、海の流れとそれによって運ばれるものの関係について解説する。

## 和田 時夫 (わだ ときお) 氏 プロフィール



### 略歴

- 1954年 京都府舞鶴市生まれ
- 1977年 長崎大学水産学部水産学科卒業  
農学博士 (東京大学、1986年)
- 1977年 水産庁入庁  
北海道区水産研究所、中央水産研究所、  
遠洋水産研究所において調査研究に従事
- 2004年 水産庁増殖推進部参事官
- 2007年~ (独) 水産総合研究センター水産工学研究所  
長、同研究推進部長、同中央水産研究所長
- 2014年現在 水産総合研究センター理事 (2012年~)

専門は、水産資源学、水産海洋学。

特に、マイワシなどの小型浮魚類の資源変動と気候、海洋変動の関係、水産資源の評価、管理手法の開発など。

所属学会：日本水産学会、日本海洋学会、水産海洋学会など。

### 講演概略 (題目：日本海の魚と漁業—変化する環境下での課題と展望)

日本海は、わが国の海面漁業生産量の2割を産み出す重要な海域である。地質学的には新しい海であり、魚類をはじめとする海洋生物の多くが太平洋に起源を持つ。特に、対馬海峡を介して東シナ海との関係が深く、ブリ、クロマグロ、スルメイカなど、東シナ海で産まれた卵や仔稚魚、幼生が対馬暖流によって日本海に運ばれ、成長して漁獲対象となるものも多い。一方、日本海は水深が深いため水深約300m以深には固有の冷水層が発達しており、スケトウダラやハタハタ、ズワイガニなどの冷水性の魚介類が分布する。こうした多様な暖水性や冷水性の魚介類を対象として、古くから各地で様々な漁業が発達するとともに、近年は、西部海域を中心に、トラフグやクロマグロなどの養殖業も活発に行われている。

日本海は、太平洋や大西洋に比べると面積が小さく閉鎖的な海であるため、水温上昇などの地球温暖化の影響がより早く顕在化するとされている。近年、海面水温の上昇が指摘されており、サワラなどの暖水性種の分布域の北方への拡大や漁獲量の増加、スケトウダラなどの冷水性種の再生産関係の悪化など、魚介類の分布・回遊の変化や資源状態の変化が指摘されている。また、日本海は周辺国の排他的経済水域 (EEZ) が重なり合っており、公海がない海域でもある。世界的には水産物への需要が拡大を続けるなかで、日本海の水産資源の持続的利用を図るためには、海域の環境や生態系の保全を含め、水産資源の管理について関係国の連携と協力が不可欠であり、特にわが国のイニシアティブの発揮が期待されている。

この講演では、日本海の主要な水産資源と養殖業を含む漁業の現状を紹介するとともに、変化する自然環境や社会・経済的な状況の下での、日本海の漁業の課題と進むべき方向について展望してみたい。

都司 嘉宣 (つじ よしのぶ) 氏 プロフィール



略歴

- 1970年 東京大学工学部土木工学科卒業  
理学博士 (東京大学 1985年)
- 1973年 科学技術庁防災科学技術センター研究員
- 1986年 東京大学地震研究所地震火山災害部門  
助教授  
東京大学地震研究所地震火山災害部門  
准教授
- 2008年9月 海上保安庁長官表彰受賞
- 2014年現在 (財) 深田地質研究所客員研究員  
(独) 建築研究所特別客員研究員  
(独) 防災科学技術研究所客員研究員

津波・歴史地震学

過去に発生した地震や津波について、古文献資料に基づいて研究。

産経新聞で「温故地震」を連載し、過去の被害地震を解説している。

日本地震学会所属

講演概略 (題目: 京都府北部の直下型地震と若狭湾を襲った津波の歴史)

寛文2年(1662年)北近畿地震、昭和2年(1927年)北丹後地震の被害の詳細と活断層の関係、及び昭和58年(1983年)日本海中部地震、平成5年(1993年)北海道南西部沖地震の各津波による舞鶴湾の海面振動を論じ、丹後地方の地震、津波防災を考える。